

牛久：学校周辺に見る自然

第19号 牛久自然観察の森

2015年12月21日発行

< 秋から冬へ その3 >

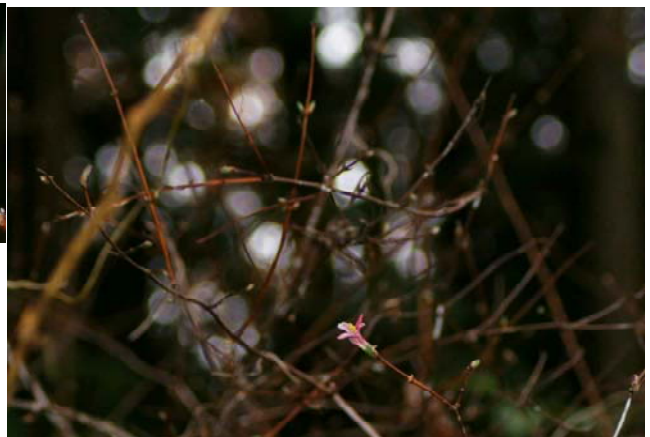
みなさん、こんにちは。今回は、12月10日に歩いた牛久自然観察の森。



鮮やかなイロハモミジの紅葉(左)と、サルトリイバラの赤く輝く実(右)。

まずネイチャーセンターの手前で目を引いたのが、イロハモミジなどの紅葉でした。そして、林の下のセンリョウやマンリョウ、サルトリイバラなどの赤い実も。

驚いたのは、春の花の代表ともいえるウメやウグイスカグラが、一輪とはいえもう咲いていたこと。数日後水戸の偕楽園でも、一部のウメが開花とニュースがありました。



もう咲いていたウメ(左)と、ウグイスカグラ(右)。



卵で冬を越すゴンズイノフクレアブラムシ(上)とジョロウグモの卵のう(左)。



落葉が進むゴンズイでは、枝にびっしりとゴンズイノフクレアブラムシがついていました。卵で冬を越すといわれていますが、生きているのか死んでいるのか、枝が高くて確かめることができません。

イチョウの幹には、ジョロウグモの卵のうがついていました。そして近くのヤマグワの根もとには、クモの巣のような綿のかたまりのようなものがびっしり着いていましたが、よく見ると、ガの幼虫のようなものが透けて見えます。このようには見覚えが…。ヤマグワの葉を食べる、クワゴマダラヒトリの幼虫でした。



ヤマグワの根もとに綿のかたまりのようなものが…(左)。 近づくと何か幼虫のようなものが透けて見えます(中)。クワゴマダラヒトリの幼虫でした(右)。



昆虫の仲間は種によって卵や幼虫、蛹で冬を越すものが多く、いずれもじっとして動かないのがふつうです。ところが中には暖かくなると動き出すものや、冬でも変わらず活動し続けるものもいます。ゴマフリドクガの幼虫が、ヒサカキの葉を食べていました。もう寒い時間だったのですが、平気なののでしょうか？

ヒサカキの葉を食べる、ゴマフリドクガの幼虫。



コナラの枝のくぼみには、
ヒメアカボシテントウがじ
っとしていました。テントウム
シの仲間は、このような風をよ
けられる所にじっとしているこ
とが多く、わら巻きなどに集団
で冬越ししていることもあるよ
うです。

コナラの枝のくぼみで、じっとし
ているヒメアカボシテントウ。
ここなら、雨や風をよけられる？



クヌギの小枝に松葉の
ような、草の茎のような
ものが引っかかっています。
クモの糸にでも引
っかかったかなと思いな
がらよく見ると、それは
クモそのものでした。

腹部がとても長いオナガグモです。ジョロウグモなどは卵で冬を越
しますが、このクモは成虫で冬を越すようですね。緑色をしててじっ
として動かないので、まるで植物のようですが、なんと糸を伝ってく
るクモを食べてしまうクモなのです。

クヌギの小枝にいた、松葉のように見えるオナガグモ。クモを食べるクモ。



こちらの枝には、おなじみのホソミオツネトンボ。成虫で冬
を越すトンボ。どこにいるか分かりますか？

最後は、牛久自然観察の森では越冬しているようすをよく見られる、ホソミオツネトンボ。枝と
同じような茶色っぽい色に変身し、じっとして動かないので、近づいてもトンボだと気がつかない人も
多いようです。トンボの仲間は大部分が幼虫で冬を越し、赤とんぼの仲間などが卵で越冬しますが、
中にはこのトンボのように成虫で冬を越すものもいるのです。

【理科支援員：宮内】